

2023年1月26日 千葉大学アカデミック・リンク・センター
ALPS プログラム第8回シンポジウム 新たな時代における大学の学習支援を考える
ー学習支援の指針、現状、望ましい在り方ー
参加者アンケート

参加者アンケート（オンライン：Zoom）

当日参加者数： 144 名 アンケート提出数： 58 件

本セミナーについて、参加者の皆様から寄せられたご意見・ご感想を以下に掲載いたします。なお、原則原文のまま掲載しておりますが、個人名・組織名が特定できないよう事務局で若干の調整をおこなっておりますことをご了承ください。

1. 本日のシンポジウムで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・ 特にありませんでした。
- ・ 学習支援専門職として、優秀な先生方がいらっしゃることを改めて知りました。全額共通教育の推進が求められている昨今では、このような先生方が必要だと思いました。
- ・ 中井先生、清水先生のご著書を購入したいと思います。
- ・ 継続して、聞けませんでした。
- ・ 本日はありがとうございました。大学全体での連携・共有などの学習支援者の苦勞、学生の参加意欲、いろんな取り組みがありまだまだ課題はあるかと思いますが、先生方の意見を聞いて参考になりました。
- ・ 学習支援に関する共通の話題・課題について改めて認識ができた。
- ・ いろいろな学習支援があること
- ・ 大学としての学習支援方針を持つことや、情報共有・連携の必要性と難しさ
- ・ 全体的な視点、具体的な視点、それぞれ丁寧に説明いただき、非常にわかりやすかったです。
- ・ 質疑応答の中で、イベントを開いても学生が集まらないというものがありませんでしたが、同様の悩みを抱えておりましたので、大変参考になりました。
- ・ 日頃から大切だと感じていることを再確認することができました。新しい発見としては中井先生の行列ができるのが本当に良いことなのか？というそもそもの部分です。あらためて考えさせられました。
- ・ 学習支援のルーブリック評価、学習支援の連携の重要性と困難さ、学習支援の定義など、少しずつですが理解が進みました
- ・ 清水先生の面談しやすい関係と信頼を築くことの大切さがよくわかりました。日々の業務に忙殺されて見失いがちですが、学生と関わる際に改めて心がけていきたいと思いました。
- ・ 所属大学での学生支援で感じている課題がそのままいくつも提示され、どの大学も共通の困難さを抱えていることがわかりました。学生のニーズの把握、学生支援の活動を学内者に周知すること、学生が活用しやすい・手の届きやすい支援活動を示すこと、わかってもなかなかできないと感じています。
- ・ どうしても目の前の困っている学生の対応に引っ張られるので、組織的に実施していくことの重要性に気づきました。
- ・ 「学習支援の評価 学習支援がうまくいったのかどうかはどのようにしたらわかるのか」において、「評価」を頭の中から消去すると、何が見えるのだろうか、（もちろん、良い点（メリット）に限る）という視点を得たこと。

- ・ 学修支援といっても内容や対象は多様であり、取り組みもさまざまであることが改めてわかった。私は学生数が多い私立大学に勤めているので、国立大学の方々とはアプローチが少し異なるのだなと感じた。
- ・ トランスファラブルスキルという言葉が知らなかったため、新たな発見でした。連携が課題となっていることはとても共感できました。
- ・ 学習支援の評価の難しさを改めて感じました。学習支援業務の必要性が学内各組織でどの程度浸透しているか、職員向け広報の難しさもまた感じました。ピザセミナー、やってみたいと思いました。
- ・ 学修支援の定義やルーブリックという概念について知ることができました。また、質疑応答を通じて、全国の学修支援担当者が同じような悩みを抱えているのがわかりました。
- ・ 評価について、あらかじめ何で評価するかを決めておき、後から達成状況を確認する、という清水先生のご発言が印象的でした。確かにその方が、予算獲得や体制が確保しやすそうです。ありがとうございます。
- ・ 大学職員がこれまで日常的に学生に対して行ってきたことの延長線であること、しかし個々の職員が既に持っている知識や経験の中だけで対応するのではなく、大学として体制を整えることが必要であると、改めて認識しました。
- ・ 成果の捉え方 教師側と学生「連携の重要性」「客観的な評価」「集客 ピザセミナー・ランチョンセミナーなどユニーク」「可視化していくことが大事」
- ・ 学修支援に関して、「専門性」という着地点を目指して様々な構想がなされているということ、恥ずかしながら初めて知りました。
- ・ 「学習支援の2つのアプローチ」、特に、自己確立や自律的な学習を促していくアプローチも必要であるということ。今までは どちらかといえば指導中心で、理解してもらい身につけてもらうことだけに専念していたように思う。
- ・ 教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリックなるものの存在を初めて知りました。学修支援をする立場にいながら、そのために必要な知識、能力、支援方法などは OJT で身に着けてきた感じです。また、支援にあたる教員間でも情報共有することなく、各教員が独自の方法で実施していますが、大変参考になる資料を教えて頂いたと思っています。
- ・ 大学における学修支援活動が、経験として横の連携がないことは分かっていたつもりですが、現状やはりそのような状態である大学が多く、組織立った学修支援活動が大事ということをあらためて理解しました
- ・ 支援の希望者が多ければいいということでもない（場合により授業のほうに問題あることも）とのお話をうかがい、新たな視点を頂きました。また、部署間・教職員間で、支援の意義と方針を共有することが大事とのお話や、SNS を利用した情報提供の例、オンデマンドのセミナー例などの例示から、いま携わっている現場（非常勤ですが）において今後のありかたを考えるためのヒントになると思いました。
- ・ 学習支援センター教職員の資質、能力に関するルーブリックは初めて勉強させて頂きました。これまで、経験的になんとなくこのような能力が必要だと思っていましたが、言語化して頂いたことで得心がきました。
- ・ 教育・学修支援は組織としての対応が今後の課題であること。これまで、各大学で実務としてやられてきた教育・学修支援のあれこれについて、組織の面と個人の面で日本語で明確にさせていただいたことが良かったです。
- ・ 連携の重要性
- ・ 我妻先生がご発表された学習支援センター教職員に必要な資質・能力は、経験的に、なんとなくわかっていたものですが、科学的根拠を持って、言語化されたものを初めて勉強させて頂きました。
- ・ ハードとソフトの話がありましたが、「ソフト」の面特に人の意識の違いを痛感することがありました。今回の話を伺い納得できることができました。

- ・ 「自身の支援がうまくいってるのか・・・自問自答する」というような言葉を聞き、学習支援について実績や詳しい先生でも、そのようにお感じなのか、やはり難しい問題なのだな、と思いました。(教育全てに関しても言えることです)
- ・ 学生支援の傾向と必要なことの実践例が分かった。
- ・ 各大学での組織間の連携がやはり課題だということが分かった。
- ・ 2022年の大学設置基準の改正、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」「教学マネジメント指針」で職員の専門性が明確にされているということ。
- ・ いつも興味深く拝聴しております。今回はZoom参加したのですが、所用のため聴講できませんでした。申し訳ございません。可能であれば、オンデマンド視聴の機会があるといいのですが。
- ・ ループリック改訂されることは知りませんでした。学習相談については、なるほどなるほどとうなずきながら拝聴していました。
- ・ 大学図書館職員です。学生支援について課題と感じていたニーズの把握、周知および集客、教職員や他部署との連携が共通の課題であることがよく分かりました。コロナによって変化した生活様式や行動様式、進展したDXなどを踏まえて、これまでの業務、サービス、方法などを根本から見直す必要があると思いました。
- ・ 学習支援について、「組織の連携」が自学のみではなく、多くの大学が抱える課題であることがわかったが、それを解決していくための方策を知ることができた。
- ・ 組織的に学習支援に取り組むことの重要性が改めてよく分かりました。また、中井先生による「支援対象が多いのはいいことなのか？」という問題提起には(日頃支援実績に囚われがちなため)はっとさせられました。学生が必要としている支援の本質をみななければいけないな、と感じました。

2. 本日のシンポジウムで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・ 20年近く前からリメディアルも含めて組織的な学修支援が必要であることを外から言い続けてきましたが、未だにこのような状態であることに驚きましたし、学生の反応についての捉え方も外的外れではないかと思われるところが散見され、暗澹たる気持ちになりました。
- ・ 特にありません。
- ・ どの講師の先生も、ご講演内容が明瞭でしたので、特にありませんでした。
- ・ 継続して、聞けませんでした。
- ・ 学生一人一人のニーズに合わせた学習支援を実施することと、成果をどこに求めるかということは難しい課題だと感じました。
- ・ 教員間の温度差、学部間の温度差に対して、最初の一步をどのように踏み出せばよいか、何年もかかりそうで少し気が遠くなりました。
- ・ 教員の離任・着任のたびにどのように周知していけばよいのかも課題と思いました。
- ・ 学習支援に関して学部・学科教員ができることをもっと知りたいと思いました。
- ・ 中井先生、清水先生の内容はよくわかりました。「自律性」は「社会に自分を適合させるように(適合できるように)自分を律しなさい」という意味合いのような気がしますが、支援してほしい学生は、当面、(社会に目を向けるというより)自分のことで精一杯なのでは？(社会に貢献しようと思っけていても)
- ・ 特にありません、勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ 「学習支援の成果の可視化」難しいことは承知していますが…
- ・ 図書館がどのように役に立っているのかについて、伺いたかったです。
- ・ 他部署との連携や、利用者のニーズを探るなど、何十年も前から言われているのに、どうしていつまでも実現しないのか、と、自戒を込めて思いました。
- ・ 特にありません。

- ・ 我妻先生がご報告してくださった調査が非常に興味深かったのですが、探索的因子等データを読み取るための基礎知識が私に不足しており、消化不良に終わってしまいました。また、学生と接する機会が多く、学生が身近な存在と感じやすい教員との連携に関する話が少なく、その点についてどのような議論がなされているのか疑問に思いました。
 - ・ やはり「成果の可視化」は難しい。図書館でガイダンスをしているが、本当に理解してくれ、後日の学習に役立っているのか？ 直後のアンケートでは「わかった」「なんとなくわかった」がほとんどである。半年後・1年後等 継続してみたい必要があるのかだろうか。
 - ・ ポストコロナでの学修支援活動において、オンラインによる支援は、学生にとってはメリットは大きく、これからも続いていくと思いますが、対面よりもノンバーバルコミュニケーション能力がより必要になってくると思います。支援側から相談者に伝わるノンバーバル、相談者から読み取らなければならないノンバーバルなどももう少し詳細に学ぶ機会があればよりよいとご発表を聞きながら思った次第です。
 - ・ 特にありません。
 - ・ 組織的な学習支援の「組織的」とはどういう状態をいうのか、疑問に思いました。よく見る言葉ですが、その定義についてはあまりよく考えずに使われているような気がします。
 - ・ 特にありません。
 - ・ 特にありません。
 - ・ 大学のベテランの先生方の中には、昭和の時代には「学習支援」「学生支援」など無かった、なぜ必要なのか、という方もいると思います。そういった意見と、支援を進めている意見との話し合いや擦り合わせが、どのような様態なのか、興味があります。(学生支援についての資料や研修会では、「落ちこぼれるやつは見放してしまえ」という意見は取り上げられないものですから)
 - ・ 特にありません。
 - ・ 国の政策で大学職員の専門性が明確に打ち出されていても私学経営者には浸透していないのではないかということ。
 - ・ ルーブリック改訂にあたって、手法は良くわかったのですが、どれぐらいの期間、どれぐらいの人員体制で取り組んだのかに興味を持ちました。
 - ・ 質疑応答の「イベントを行っても学生が集まりません」という話題の中で、海外の事例としてランチョンセミナーやピザセミナーなどがたくさんあるというお話だったと思います。「ランチョンセミナー」は昼食をとりながら気軽にセミナーを受けられるという意味と理解していますが、「ピザセミナー」がよく分かりませんでした。
 - ・ 改めて学習支援の必要性が増したので、よくわからなかったところや疑問は今のところない。
- 3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。**
- ・ 特にありません。
 - ・ 文章作成支援などいくつか実施していますが、必要な学生に届けることが重要だと考えています。そのためには、本人が気づくようにアクションをおこない、同時に気軽に利用できるような雰囲気づくりをおこなっています。
 - ・ 学習支援を広めるために、学内にきちんと意義を説明できるようにしないとないと思いました。
 - ・ 直接の学習支援担当部署から異動となりましたが、部署間の連携、それぞれの部署でできる支援を組織的に構築していこうと思っていますので、今回のお話は大変参考になりました。ありがとうございました。
 - ・ 子どもの発達において用いられる「共同注視」や「共同注意」をどこまで、一人一人の学生と継続して実践できるか、、、寄り添えるか、、、まだよくわかりませんが、発達段階に限らずやはり人ですので。

- ・ 本学ではスポーツ推薦で入学する学生もいます。私の関係している運動部では、そのような学生で単位がなかなかとれない者がいます。本学では一定数の単位を所得出来ないという形で関係している教職員が当該学生と会って指導を行います。そしてその後に、大学の学生支援部門が開催する講座を受講することが必須となります。その後も学生支援部門のスタッフのサポートを受けるように指導しますが、そこでは主にカウンセリングのようなことをしていただいています。
- ・ 学生の立場に立って考える能力が特に求められると思います。すぐにアドバイスするのではなく、傾聴、共感し、安心して相談できると感じてもらえる雰囲気づくりが必要かとおもいます。
- ・ スポーツの世界でも、英語などでも、「一流」または「トップクラス」の方を知っておくことでそこに近づけるまたは、超えられる気がします。英語でも、例えばアイエルツなどの公認の先生の発音を聞くと、明らかに違います。それをめざした時に、自主的な学びができると感じました。目標を高くして、細分化された目標を達成していく。大学生、院生には、時間をかけてじっくりと学習に取り組める時間と環境があるので、自分としては、やりたいことを見つけて学習することができました。その中で、こういったオンライン授業は、とてもありがたいです。教育の場面では、事例を多く知っておくことで幅広く対応できると感じました。学生は、時間があるので、例えば教育学部なら、小学校や中学校の自分の専門の教科の指導書を買って勉強（見ておくだけでも）をしておく、現場に行った時に、教材研究が忙しくてできない時でも対応できる気がします。
- ・ セミナーの質疑応答で、所属教員にも情報を伝えて授業内でアナウンスしてもらおう、といった内容がありましたので、複数の大学で非常勤講師をしている立場からの考えを少し述べさせていただきます。授業を受講している学生から色々な質問をされても（例えば、部活の公式戦は正当理由による欠席と認めてもらえるのか、GPAが上がらなくて困っている、など）、大学ごとに学修支援システムが異なり対応部署が違うため、対応に苦慮しています。もちろん、各大学の公式サイトや履修要項等を詳細に確認すればわかるとは思いますが、複数の大学で勤務していますので（多くの非常勤講師はそうであると思います）、すべての非常勤先でそのような行動を選択することは時間的に難しいです。また、学修支援に関して常勤の所属教員と同じ質・量の情報を与えられても、手に負えません。そのため、せめて、「このような内容で困っている学生がいたら〇〇へ、このような内容で困っている学生がいたら××へ」といったような、困っている学生に道案内ができるような情報を一覧にいただき、非常勤講師に配布していただけたらありがたいと常々思っております。今後、学修支援の在り方を「教員との連携」という視点から考える際には、「教員には常勤と非常勤があり、それぞれ状況が異なる」ということも踏まえて連携方法を構築して欲しいと思っております。
- ・ いくつかの部署に学習支援体制があるが、残念ながら上手く連携できているとは思えない。留学生対象は留学生担当部署、文書作成や e-learning 等は教育支援部署、文献の検索は図書館と、専門に分かれているのは良いと思うが、「いつ・どんな内容を」が解り難い現状である。連携の手始めとして、それぞれの部署の支援の補助として図書館資料を紹介していこうとしている。
- ・ ひとりの学生の悩み、つまりは複数であることが多いため、単なる学習支援に留まらず、関係者が手をとって個別最適な支援を行っていきたい考えをある程度共有している。
- ・ 特にありません。
- ・ 今回のシンポジウムでもお話されていたように、組織や制度にもよるのですが、実際の現場は、属人的な部分が多いと思います。私の所属先も、保健室（かつ学生相談室）で学生のみならず教職員全ての心身の健康を担当していた方が10年以上勤めて定年になりましたが、その後も身分（待遇）を変えてなんとか3年とどまってもらい、さらに来年度は人材派遣として週2日来てもらうことになりました。「この人がいないと困る」という人がいること自体が、組織としては弱点です。その人のノウハウを引き継ぎたいのですが、引

継ぎ資料を作るような時間が、誰にもないのです。

- ・ 千葉大学国際教養学部の SULA システムのような学習支援
- ・ 大学職員としてジェネラリストを育てつつも、学生を支援する職員については、事務的な能力だけではなく、カウンセリングやコーチングなど、コミュニケーション技術が必要と感じています。各大学において、学生支援のプロパーを育てるなどが必要かと思います。
- ・ 自ら学び続ける職員
- ・ 本学でも大学院生を雇用してみているのですが、予算が限られていることもあり、時間が限られてしまいます。それなりのスケールを持たせないとなかなか機能しないように感じています。では、最低限どれぐらいのスケールを目指せば良いのか、そこがなかなか難しいです。
- ・ 在り方は、学生が学生生活において自己実現ができるような支援と社会に出てから困らない力をつけるための支援であると思います。資質・能力は、コミュニケーション能力、行動力などだと思います。自分を含め、図書館職員はおとなしい人が多いと思うので苦手な資質・能力だと感じています。
- ・ <大学における教育・学修支援の在り方>大学として「学生支援に関する方針」「学生を見守る支援体制」等、支援体制は整えられている。ただ、各々の支援体制が体系化されておらず、明文化されていない現状に学生たちの満足度は大きいとは感じられない。<教育・学修支援のために必要と思う資質・能力>教育・学修支援に必要な資質・能力は、学習者の目線に立てる人、傾聴力がある人、多様な学生を受け入れることができる柔軟な人間性の人、その他能力として、アカデミックスキルや IT の知識がある人等<取組み事例>学生相互による学習支援の構築「学生リーダーの育成(各種研修を受講したメンバーがオリターとして活動)」入学前交流会・新入生オリエンテーション(履修、ポータルサイト、Microsoft Teams の使い方、アセスメントテストの活用)、オープンキャンパスの企画・運営 今後は、ライティングの指導、ノートテーカーなどの障がい者支援にも取り組む)

4. オンラインシンポジウムを受けてみて、ご不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら、ご自由に記入してください。

- ・ 特にありません。
- ・ 特にありませんでした。
- ・ 継続して、聞けませんでした。
- ・ 特にありません。
- ・ Q&A がすべて表示されると良いと思いました。
- ・ ありません。快適に聴講できました。
- ・ 特にありません。
- ・ オンラインは移動時間もなく、非常に便利です。
- ・ 当方の問題かもしれませんが、アプリで入ることができず、web で何回かトライしてようやく入ることができました。また、今回は音声も時々途切れたりしました。(繰り返しますが、当方の問題かもしれません。)
- ・ たいへん聞き取りやすかったです。
- ・ 特にありません。回線も良好でした。本日はありがとうございました。
- ・ 特にありません。オンラインも選択できて、ありがたいです。
- ・ オンラインシンポジウムに慣れてきたので。スムーズだったと思います。
- ・ 特にありません。

- ・ 特にありません。
 - ・ 資料は参加してからの配信ですので、印刷できる時間を少しだけいただけるとありがたいと感じました。
 - ・ 資料について、シンポジウムの開始前にいただくと助かります。
 - ・ 特にありません。とてもスムーズな進行でした。ありがとうございました。
 - ・ 特にありません。
 - ・ 別がない
5. 本日の内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。
- ・ 非常に参考になりました。いたずらに歴史が長く、学部の独自性が強く出すぎている所属校のようなところで、効果的な全学共通教育を行うには、専門の教職員をパーマネントで雇用する必要性を改めて認識しました。ありがとうございました。
 - ・ とても素晴らしい学びの機会をお提供頂きまして、ありがとうございました。
 - ・ 我妻先生ご発表の、「教育・学修支援の専門性に必要な能力項目・能力ルーブリック」に興味を持ちました。今年度を持って千葉大学の職を離れるのですが、改訂版が発表された場合に、本セミナー受講者にアナウンスいただくことはできないでしょうか。公刊・公表されたものであれば、ぜひ拝見したいと考えております。
 - ・ 貴重なお話をありがとうございました。機会がありましたら、具体的な事例などもお聞かせいただけたらと思います。
 - ・ さまざまな成功事例の具体を知りたいです。例えば、清水先生が紹介されていた立命館大学や追手門学院大学のオンライン支援など、どのように参加者を増やしていったかなどの具体を知りたいです。オンライン学生支援は所属大学でも実施しましたがなかなか普及しませんでした。
 - ・ コロナ禍を経て学習支援のあり方も少しずつ変わってきていると感じました。
 - ・ 次回も聴きたいです。
 - ・ 今回のシンポジウムの最後にガイダンス等の集客について話題になっていましたが、タイパ（タイムパフォーマンスというらしいです）を重視し、最低限の時間と努力で目標（単位所得）を達成したいと考えている学生も一定数いるので、どうやって動機付けさせるのかは重要なテーマだと思いました。ちょうど昨日にオープンバッジのセミナーがありました。これも参考になると思いました。
 - ・ 学生のニーズの把握を今後、意識していきたいと感じました。
 - ・ 中井先生と清水先生のスライドが見やすかったです。我妻先生のスライドは細かい文字ばかりで、辛かったです。
 - ・ 質問のセッションで話題になった教育・学修支援に対する評価の難しさは、教育現場では昔から言われてきた課題だと思います。これまでは、主に教員が評価の対象だったのですが、職員による学習支援が普及してきた結果、教職員双方に問題が広がってきました。ただ、このことは逆に考えると、教職員がオープンな場で共通の課題について議論ができる場が醸成されてきたと見ることもできます。教育・学修支援の専門職の養成を通じて、教員と職員が共にこの課題に取り組めるようになるとよいなあと感じています。
 - ・ ありがとうございました。
 - ・ 特に常勤職員は多様な業務に忙殺され、じっくり取り組むことが難しくなっています。学修支援の重要性は言われながら、たまたま担当に当たった職員が手弁当または前任者の遺産を食いつぶす形になっていることが多いのではないかと懸念します。

- ・ 新しいことを知ることができると、研修や講話そのものが新鮮に感じます。他者理解をして自己理解が深まると思います。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 多様な学生が進学してくる現在、学生の主体性に任せず、教職員が様々なことに手を差し伸べサポートするようになり、指示待ちの学生が増えます。自律した学習者が育たない悪循環に陥っている気がしています。本学部では、ラーニングコモンズの一画に学習相談室を設け、日時を定めて教員が年数回相談会を開催していますが、ニーズがないのか利用する学生もほほいしません（ピザは無理でもその発想で集客する案は面白いと思いました）。学修支援が上手く機能していないのが現状です。
- ・ 有意義なシンポジウムをありがとうございました。
- ・ ありがとうございました。
- ・ パネルディスカッションの最後に、どのように情報を学生に届けるのかということが話題になりましたが、これも多くの方が悩んでいることだと思いますので、「学生向けの効果的な学内情報発信」をテーマに優れた事例を取り上げてセミナーが開かれればいいのかもしれません。
- ・ 大学として、学習支援をどのような方針で進めるのかを明確にし、各学習支援が連携することの重要性を改めて認識いたしました。簡単なことではないかと思いますが、少しずつでも前進ができるよう働きかけをしていきたいと思います。なかなかうまくいかないと折れそうになることもあります。みなさまも同じような悩みを持ちつつ取り組んでおられることを知り、心強く感じました。ありがとうございました。
- ・ 組織的な学習支援は、トップダウン的に実施できれば理想ですが、実現困難なことを改めて痛感しました。一体、どこからどのように手を付ければよいのだろうと、一瞬、くじけそうな気持ちになってしまいましたが、各質問への先生方からのご回答を伺いながら、やはり、さまざまな実践（試行錯誤）をとにかく重ねながら、ボトムアップ的に、いろいろなパターンを作り上げて、広く共有していくことが大切なのではないかとも思いました。また、図書館の外に図書館員の方や学生スタッフに出てきてもらって図書サービスの紹介などしてもらい、「顔を覚えてもらう」こと、本当に大事だと思います！が、なかなか理解してもらえません（涙）。そのうち、「私たちと一緒に活動させてもらえませんか？」などと向こうから相談してもらえるように、まずは実現しやすいような他の支援領域から取り組みようかと思いました。
- ・ 今後も、学生支援に関する内容は、受講していきたいと考えています。
- ・ 先生方のお話はもちろんですが、質疑応答がとてもためになりました。特に「イベントに学生が集まらない」に対するご回答が、哲学的でもあり面白かったです。学生が誰も皆、学習支援を必要としていない、かつ、学生生活がうまくいっているのであれば、イベントに閑古鳥が鳴いても喜ばしいことなのですが。キミは問題があるから、こういう話を聞け、とか、キミは困っているだろうから、とか、押し付けることができないのがもどかしいですね。不幸だと自覚していない人間に、キミは不幸だから、と認識させることは、援助なのか悪なのか考えてしまいました。
- ・ 大変参考になりました。ありがとうございました。
- ・ 学生に資格や免許を多数用意している大学でも職員にはその資格・免許・能力が発揮できない職場であるという現実がある。職員の能力が発揮できる職場になってこそ学生支援もできると思う。また、学生も意外とそういう学内環境を見抜いているのではないだろうかという気がする。このことが入学者数に反映しているかもしれない。
- ・ ありがとうございました。毎回楽しみにしています。
- ・ 大変勉強になりました。ありがとうございました。

